



通常訪問研修を終えて

立山中央小学校

研究主題：学びを楽しむ子供の育成

本校では、「課題解決能力の育成につながる学習意欲の喚起」と「子供の立場に立った授業改善」を視点に研修を進めています。通常訪問研修で見えてきた成果と課題の一部を紹介します。

【明らかになったこと】

- 学びの系統性を意識し、目的を明確にもって単元構想や手立て、場の設定を考えることで、子供たちは既習を生かして考えたり選んだりしながら主体的に学ぶことができる。また、子供の思考に沿って柔軟に単元構想を変更していくことも必要である。
- 教材文や資料、図の見方・考え方を学ばせたくて教材に向き合わせることで、子供たちは考える視点が分かり、学びを楽しむことができる。
- 表現の言語化にこだわりすぎず、教科に合わせた表現方法を子供が選択できるように、指導の幅を広げていくことが大切である。また、「まとめ」の段階では、言葉や文章で表現するだけでなく、算数では適応問題に取り組んだり、理科では再現性を求めたりするなど、学習の内容に応じた活動を設定し定着を図ることができるようにする。



【課題】

- 話し合いにおける教師の問い返しのタイミングや言葉の吟味が必要である。また、子供のつぶやきや反応の中から、多様な考えを広げていけるようにしていく。
- 子供が学びを明らかにするだけでなく、そこで出た疑問を次時の課題にすることで学びのサイクルが確立できるよう、振り返りの時間を確保したり、振り返りの内容を吟味したりすることが必要である。
- 手立ての効果を実証するための適切な評価の在り方を工夫する。自己評価だけでなく、他者評価も活用し、客観的な評価も指導の改善に生かしていく。

指導主事等の先生方から、今後の取組の方向性を示す多くの助言をいただきました。今後の研修に生かしていきたいと思っております。

文責 教務主任 氏名 宮腰 陽子

